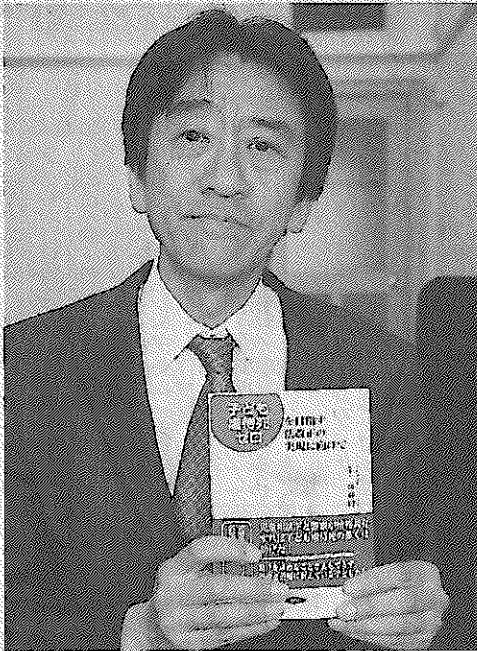


# 子どもの虐待死防ぎたい



子どもの虐待死の実態と具体的な対策を本にまとめた後藤啓二さん＝神戸市中央区海岸通

ウサギ用ケージに監禁し殺害、ゴルフクラブで殴り撲殺…。親からの虐待で子どもが命を落とす事件が後を絶たない中、弁護士の後藤啓二さん(56)＝神戸市長田区出身＝が、「子ども虐待死ゼロ」を目指す法改正の実現に向けて「エビック」を出版した。子どもを虐待から救う方策について、後藤さんに聞いた。

(鈴木久仁子)

## 神戸出身の弁護士、後藤さん

## 実際の事件取り上げ本に

後藤さんは東大卒業。0件の事案を抱えている後、警察庁に入り、大阪府のが現状という。「きめきめ警生活安全部長、内閣参事官などを歴任し、2005年に退職。その後、弁護士として神戸と東京で活動し、NPO法人「シンクキッズ」子ども虐待・性犯罪をなくす会(東京都)の代表理事も務める。

著書には実際に起きた全国の虐待死事件を列挙する。事件の概要と課題をつぶさに挙げ、「こうすれば殺されずにすんだ」と方策を示す。いずれも兎相や警察、市町村が情報をあまり共有できず、連携がうまく取れない実態が浮かび上がる。

犯罪や非行に走る子どももらについて「虐待された経験がある人は少なくない」と後藤さん。「せつかく生き延びても成長に大きく影響を及ぼす。虐待家庭からは一刻も早く救い出さなければならぬ」と訴える。

ところが、児童相談所で虐待に対応する児童福祉司は1人当たり、14「夫婦けんかと言われ、

例えば、「親のどなる声や子どもの泣き声がする」と通報を受け、警察官が急行しても、「虐待の恐れがある家庭」という兎相の情報を知らず、

## 児童相談所や警察の情報共有急務

見抜けなかったケースがある。「訪問しながらも子どもを恐怖と苦痛から救えず、最悪の事態を招くことになったケースは数多い」と指摘する。後藤さんは「兎相や警察、市町村など各組織が縦割りの意識をあらため、情報共有し連携して動く規定を作ることが、子どもを守るための急務」と強調する。「シンクキッズ」は、その具体策として、兎相と警察が情報共有し連携して活動するための法改正を求め、署名運動に取り組んでいる。

現在、虐待対策強化のため、児童福祉法と児童虐待防止法の改正案が国会に提出されているが、後藤さんは「もう一歩踏み込んだ法改正が必要」と訴えている。

「子ども虐待死ゼロ」を目指す法改正の実現に向けてはつぎの、1620円。エビック社078・241・7561

署名活動は、NPO法人「シンクキッズ」子ども虐待・性犯罪をなくす会」のホームページから参加できる。

